

仙台司教区 教区事務所だより



(第 48 号)
昭和56年10月1日

一致のための努力を！

― 私達は 兄弟 なのだから ―

教会の一致ということがよくいわれる。ここではキリスト教諸派間の一致（エキュメニズム）ではなくて、カトリック教会内での一致協力を意味している。つまり司教と司祭団の一致、司祭団士の一致、司教や司祭団と信徒との一致、信徒同士の間での一致である。さる二月末に日本を司牧訪問された教皇も、多くの機会に一致協力を説き、つよく希望された。それはほかでもない。私たちが使命としていただいている福音の宣教は、教会の結束が固ければ固いほど成果があるし、司教、司祭、信徒の考えがバラバラでまとまらないなら、およそ宣教など出来るはずがないからである。もちろんその上に、神と隣人を愛するという福音の最大のおきてに結ばれ一致することこそ、私たちの信仰生活の目的そのものになるからである。

しかし一致だ、一致だとばかり言われてい

ると、実感が伴わない言葉だけのものになってしまう危険がある。一致は「掛け声」で達成されるものではなく、信者一人ひとりが自分の身近な人と心を通じ力を合わせて働くことによつて生まれる。つまり私たちの日常の、きわめて卑近なことにかかわっている問題だ。この一致を妨げるものはなんだろうか。まず、自分だけが神のみ旨にかなっているという思いあがつた心。他人の欠点しか見えない不幸な心。教会の動きや他人のことには全く無関心な態度。自分だけを主張して他人の話には耳を傾けない態度。そしてそれらのもとなる祈りや修徳、勉学の不足であろう。たとえ多少自分の気に入らないことがあつたとしても、他人の仕事に協力するならばそこに一致が見られるし平和も生まれるはずである。周囲の人が私の至らない点をたえしんでいてくれるのだ、と気がついただけでも人間はへりくだつた気持ちになるものである。

そこに人の間の和やかさが生まれ、協力ができるといふことになる。

教会の一致のために、まず自分から行動を起こそう。また、よく現代の教会のことを知ろう。教皇や教会の指導者たちが何をのぞんでいるのか（カトリック新聞などで情報を知らう）を、勉強しよう。よく祈つて、自分がカトリック信者であるという意識をつよく持とう。さらに、どんなことでも寛大な心で教会の活動に協力しよう。身近の信者の方と信仰のことをよく話して、励まし合うこともしよう。

以上のことだけでも実行するならば、教会には一致協力の雰囲気芽生えて、和やかな教会になるはずである。私たち信者は兄弟なのだから。

「兄弟として共に住むことは、
なんと美しく、楽しいことか。」

(詩編一三三)

司教様の日程

(9月18日現在)



10月16日 東北地区カトリック校教職員研修会(仙台)

17日 遠野教会・幼稚園落成式

20日～22日 三教区合同司祭研修会(佐渡)

25日 西仙台教会堅信式

26日 教区司祭団月例会

30日 中央協議会・建物検討委員会

第十二回

福島県カトリックの集い

△小名浜教会で



福島県信徒連絡協議会主催の「福島カトリックの集い」は9月15日の敬老の日、いわき市小名浜教会で開かれた。

今年のテーマは、「教皇御訪日」の意義をふまえ、教区の目標「家庭を通してキリストの愛をひろげよう」である。県内の各教会から220名の参加者を迎え、古田繁男実行委員長の開会の挨拶、続いて佐藤司教をはじめ、13人の司祭団の共同司式によるミサが行われた。ミサ中の献金は六万二千五百四十三円となり、すべてカリタス・ジャパンを通じ、アフリカ難民に送られる。

講演は、テーマにそって佐藤司教が行った。要旨は次の通り。

「本日は敬老の日であるが、長生きするということは神の恵みであり、人生経験豊かなお年寄りの言葉は、尊重されなければならぬ。また今日は、聖母の七つの御悲しみの日でもある。十字架の下に佇むマリアの悲しみは、いかにかりであつたらうか。マリアは、これに耐えて生き抜かれた。

さて教皇の御訪日は、我々にとって大きなお恵みである。しかし私達に残された課題も大きい。私達の教区目標もその中に含まれる。信仰の喜びに溢れた信徒の家庭そのものが地の塩となり、世の光とならなければならぬ。家庭内の種々の問題を福音の目で見つめ

解決していく事。小教区内の連帯は勿論、教会間のつながり、大きな教会と小さな教会との扶け合い、これらの事を実行する事は、教皇の御要望に応える途ではなからうか」と結ばれた。午後はグループに分かれ、自己紹介の後、それぞれ①教皇メッセージをどう受けとめたか。②教区目標について。③国際障害者年に当たって。④マザー・テレサについて。⑤今までの教区目標の実行や反省等について、活発な話し合いが持たれた。この模様は後で報告書として各教会に送られることになっている。

佐藤司教を囲む夕べ

↓福島県カトリックのつどい前夜↓

「仙台教区長・佐藤千敬司教」というと恐ろしく、一般信徒は余り接触する機会がない。しかし、われらのおやじに違いない。胸襟を開いて司教さんとゆつくり話し合う場が欲しいという大方の希望により、福島県カトリックの集い実行委員会では、集いの前夜、いわき市の勿来の関荘(国民宿舎)で司教様を囲む団らんの夕べを企画したところ40人の希望者があり、司教様も、「望むところだ」と快く御承諾下さったので実行の運びとなった。

午後6時半開会、夕食をしながら各自の自己紹介とザックパランな意見交換があり、一同ゆつくりした気分と盛り上がった雰囲気を楽しみ、9時に一旦閉会。近くの人ばかり、宿泊者23人が第2部と称し、更に語り続けた。靖国問題、小教区の在り方と小教区間の扶

け合い、小教区又は地区のボランティア奉仕による老人ホーム経営の見直し、須賀川の根本氏一派の対応など、この時でなければ聞けない話題が続いた。最も議論の白熱したのは、聖職者不足と今後の見通しと教区としての対策についてで、それに伴う成熟した信徒の養成方法、浜通り地区への女子修道会の誘致など。これらは将来の教会発展に対する一連の布石でもあるので、教区としても充分考えて頂きたいと要望した。話は尽きなかったが、翌日がひかえているので11時閉会。しかし地元若手グループは夜中の2時過ぎまで語り続け、翌朝はきちんと6時起床、集いの会場準備に早ばやと出かけたのは、さすが若さである。

(古田繁男記)

祝 献堂 三十周年

△北仙台教会↓



北仙台教会(主任ブテット神父)の献堂三十周年の記念ミサ、ならびに祝賀会が9月20日おこなわれた。同教会はドミニコ会のピンネット神父様の尽力で建てられたもの。その後同神父様は二十年間司牧にあたられ、十年前引退して現在は東京に在住。三十周年記念にはドミニコ会管区長ポリーニ神父とともに、八十歳とは思えぬ元氣な姿を見せ、信者たちをよろこばせた。北仙台教会の聖堂は、一九五一年(昭和26年)8月1日、当時の教皇使節フルステンベルグ大司教司式で、仙台教区としてはただ一か所、荘厳な聖別式によって献堂された。鉄筋コンクリート造りの本格的なものである。

小さな生命の尊厳

— 完全養子法についての講演会 —

△仙台△

「小さな生命の尊厳」という主題をかかげ九月十六日午後六時より宮城県労働福祉会館に於て、明治学院大学の中川高男先生をむかえ、「講演と話し合いの夕べ」が開催された。実子特例法を考える会とカトリック正義と平和仙台協議会の共催によるものである。

考える会では、過去一年余にわたつての研究をもとに去る四月、パンフレット「いと小さな生命が救われるために—「実子特例法」とは何か—」を作つてこの法の制定を求める署名運動をすすめてきたが、今回のこの催しは、運動に一段階を画する意味で企画され、みなさまの協力による一六五六名の署名からなる署名簿とその他の資料と共に宮城県会への請願書と同じ九月十六日付で提出することができた。但し請願書には、より法的な用語という事で完全養子法ということばを用いた。

中川先生は、完全養子制度が生まれてきた歴史的事情を、世界各国の事例を通して説明され、そのような国際的大勢の中で日本の立ちおくれを指摘され、日本の社会から子捨

1981・年間目標

家庭を通して

キリストの愛をひろげよう

(仙台司教区)



て、子殺しをなくしていくためには、この制度を早くとり入れる必要があることを結論された。フランスの場合でいうと、第一次大戦後の戦災孤児・捨て子などに親を与えるための養子制度が一九二三年にできたがその後、生みの親がとり返しにくる。もつた親の方で安心できない。そこで生みの親から切り離せという声がおこつた。つまり日本で現在の制度をめぐつて論議されていることと同じような論議が、フランスでは一九三〇年代に行われ、一九三九年にはこの制度の原型ともいふべきものが出来たという。

私たちはこれまで、子供を親とか家の立場からだけ考えてきたように思う。それをこれからは子供中心に考えていくようにあらためることが、根本的な課題ではないだろうか。

第五回 映画会の結果と提案

△八戸・塩町△

八戸・塩町教会では、聖堂再建のために、第五回映画会を開催した。

市公民館で7月19日(日)に4回にわたり上映、1・2回目は子ども向け「ピーターラビットとなかまたち」、3・4回目は成人向け「赤いトラックと8人の子どもたち」であった。

昨年より入場者増、切符販売も18万円を上まわり、広告等の収入を合わせ、総収入は、七七八七〇〇円。会場費、フィルム賃借料、社会福祉施設への寄付などを差し引き、利益は、四八七一九〇円。五回までの累計は、

一七五〇、九七二円となった。

今年から施設の子ども達を招待したところ96人参加した。この利益の一部を社会に還元しては、ということになり、公立母子寮、養護施設、肢体不自由児施設に3万円送ることにした。その話をした所、お金ではなく聖書など図書希望するとの事で、それらを贈ることにした。また施設の子ども達に宗教の話とも望まれ、思いがけない所で布教の一端も果たすことができた。

この様に映画会の成果は大きかった。他の教会でも、仙台教区のテーマ「家庭を通してキリストの愛を」を実行するため、収益の一部をカリタス・ジャパンに送るとか、仙台教区のカテドラル建設のための資金集めとして映画会をすることは出来ないだろうか。仙台などで行えば、相当な利益が上がるのではと思う。

マザー・テレサ 来日記念写真展



「豊かな富の中から隣人に分かち合う心が大切」との言葉を残したマザー・テレサの来日記念写真展が、去る8月29日〜9月2日まで、仙台・ジャスコで、燦葉出版社の主催で行われた。写真は、マザー・テレサのインドでの活動が中心で、日本に創立された修道院の写真も数枚加わり、マザー・テレサの生き方そのものを人々に訴えた。入場者は三千人に及び、信者、未信者を問わず、人々の関心を呼んだ。

(藤村重実記)

医療と宗教 (上)

臨床医から見た

「祈り」の必要性

前田敏行(スベルマン病院長)

宗教は、世の救済を一つの目的としているので、人間の肉体的苦痛をいやそうとする医療と宗教が深くかかわっているのは明白な事実です。宗教と医療のかかわり合いは、古代バビロニア、エジプトにおいて司祭がすなわち医師であつたこと、ヘブライ人が宗教的義務として病人の世話をしたことなど、紀元前からの医療の歴史に既に語られています。更に、初代教会のキリスト信者達が、キリスト教的愛の実践として病人の看護にあたり、それが今日の病院の発端となつた事は、密接な関係を明白に物語るものと思われまふ。

しかし近代の実証的な自然科学の発達と共に、医学は次第に宗教と疎遠になり、今日、日本において多くの病院が宗教的に中立であり、宗教を精神的基盤とする病院は少なく、現代では、医療と宗教は、必ずしも関係がないという印象を受けます。

私は臨床医として、日常の具体的な診療活動の中から、医療における宗教とのかかわりを考えてみたいと思います。

肝炎の場合を考えてみましょう。黄だんがで、急速な肝機能の悪化を見た場合、原因が何であれ、積極的な治療法はないことは周知の通りです。ただ肝臓に悪い因子を避け、

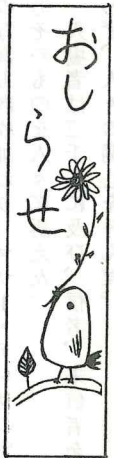
あるいは対症的に治療しながら、じつと肝臓の回復を待つだけです。こうしてじつと薬物の効果を待ち、また自然の治めを待つ医師の心を支えるものは、冷徹な科学の眼であり、もう一つは患者を慈しみ、自然に心にわく祈りです。一九一二年のノーベル医学生理学賞受賞者、アレキシス・カレルは、その著書、「人間この未知なるもの」の中で、次の様に述べています。

「奇跡による治めは、まれにしか起こらないが、それは祈りのような、ある神秘的な状態が、明確な効果を持つことを示している。奇跡の主な特徴は、器官の回復する過程が、きわめて迅速なことである。この現象が起こるのに欠かせない条件として「祈り」があるだけである。しかし患者自身が祈る必要はないし、宗教的信仰を持つ必要さえない。その病人の関係者のだれかが、祈りの状態になるだけで十分である。」と言っています。

カレルの言うように、ひたすら祈りが、奇跡をもたらすとすれば、医師はその患者個人のためにひたすら祈るべきでしょう。

もし医学が完全なものとなり、すべての病気が治療によつて治るようになるとすれば、祈りは無用になるでしょうか。「死」がないという状態は、仮定の事としか考えられませんが、その時は、「何のために生きるか」という公教要理の第一の命題が必然的に問題となるでしょう。そして祈りの必要性は増しこそすれ、なくなることはないと思われまふ。

(続く)



◎ 第四回「聖霊による生活刷新」東北大会

テーマ 「もしからし種ほどの信仰があつたなら」。(ルカ七章6)

日時 56年10月10日(出)午前10時から 11日(日)午後3時30分まで

会場 松島・仙松閣 会費・七千円

申込先 仙台・聖ウルスラ会木ノ下修道院 中島智子(TEL仙台5703339)

◎ 練成会(せせらぎCLC主催) 今回は東京から溝口昭氏、フランシスコ会の佐藤修道士を迎えて主を賛美します。

日時 56年10月10日(出)午前11時から 11日(日)午後3時まで 円 0000 円 0000 円 0000

会場 仙台YBU文化センター 3.5校生 5.0000 円 0000

指導 リバス神父(イエズス会士、費高夫 CLC司祭助言者) 会

対象 高校生以上の男女どなたでも

申込先 仙台・聖ウルスラ会一本杉修道院 梅津留美(TEL仙台8623355)

◎ 仙台・教会学校リーダー1日研修会 日時 10月25日(日)午前11時~午後5時

(主日のミサは所属教会、又は9時半の東仙台教会でどうぞ)

場所 旧あけの星荘(東仙台司教館側) 内容 レクリエーションと、話し合い

連絡先 各教会の教会学校リーダー、又は 教区事務所S小川まで

▲夏期合宿の感想▽

喜多村利恵(仙台白百合学園中三)
 友達の誘いで参加した教会の合宿では、信者でない私は少し心細かった。友達ができるだろうかという不安もあった。それに、教会の合宿だからミサやお祈りばかりやっているだろうと思っていた。でも私の思っていた事とは、まるで違っていた。そして友達も思っていたよりたくさんできた。
 三日目の登山ができなかったのは、すごく残念だった。朝は昨日の天気と違ってさわやかな快晴だったのに。
 一番印象的だったキャンドルサーブス、木に集まったろうそくの炎のように、私達の心も一つになれたと思う。
 三泊四日という短い期間で「つながり」というテーマのもとに岩手県青年の家に集まり知り合った私達、又いつ会えるかわからないが、いつまでもよき友達でいたい。

高三 赤城さとみ(石巻教会)
 「手と手をつなごう」というテーマの下に8月10日から13日まで三泊四日の高校生会の合宿が宮城県米川で行われた。
 話し合いのテーマは、「私達の年代について」、「自由について」、「もし今戦争が起こつたら」の三つで、今を、将来を真剣に生きようと思っているなら考えないわけにはいかないテーマである。しかし、それだけにむずかしく、簡単に言い切れるものではなく適当な言葉が見つからず、思いのままに気持ちを伝えることができず、先輩方の助言を必

要としたりした。

私の心に一番深く残っているのは、「自由について」のテーマで話し合った時の事である。「干渉されると逆に自由が欲しくなる」「時間に関わり回されると自由でなくなる」など、いろいろな意見が出た。

このような問題を心を開いて話し合えたのは本当に良かったと思う。そして教会から足の遠のいている高校生にもこの体験をぜひ味わってほしいと思うのである。
 ▲海浜学校に参加して▽

佐藤桂(四ツ家教会・教会学校リーダー)

今頃子ども達は何しているかなあと思いついて、宮古教会に入って行った私を迎えてくれたのは、レクリエーションの大騒ぎの歓声と大盛りのカレーライスでした。まず海浜学校で感心したことは、子ども達の交流の早さです。宮古、盛岡の区別など、私にはわからない程でした。みことばクラスでは、イエズスくんを通して心をつながり強くし、キャンプファイヤーでは頭をくっつけ合って知恵を出し合い、ユニークな劇を見せてくれました。子ども達がどんどん変わっていくのを見ながら、子どももっていいなあと思心から思いました。それにしても、深刻にリーダーがいらないと言われながら、あのような楽しい海浜学校が過ごせたことは、大きな喜びです。
 参加させていたいただいて、本当に良かったと思いました。



◎黙想会

テーマ「聖書で祈る」

指導 沢田和夫神父(東京教区司祭)

日時 10月31日(土)午後6時30分から

11月1日(日)午後3時まで。

会場 ドミニコ会宮城町生活寮

会費 四千元

主催と連絡先 980仙台市連坊小路355

渡辺清 TEL(91)3579

◎映画のおしらせ

「アウシュビッツ、愛の奇跡」

さきに「マザー・テレサとその世界」「平和の巡礼者、教皇ヨハネ・パウロ二世」を製作し大きな感動で迎えられた近代映画協会と女子パウロ会は、このたび、マキシミリアノ・コルベ神父の生涯を劇映画にした「アウシュビッツ、愛の奇跡」を完成させた。11月から全国いっせいに上映されるが、仙台では次の日程で上映される。精神的衰弱と荒廃が叫ばれている時、この映画はコルベ神父の生き方を通して、日本人々々に強烈なメッセージを伝えてくれるに違いない。

日時 11月11日(木)午後2時、6時半の2回。

場所 婦人会館5階(仙台市錦町一―120)

入場料 大人前売 600円、当日 900円

小人(中学生まで) 600円(前売400円)

上映時間 80分

主催と連絡先 聖パウロ書院(23)8639)



いわき市、平の中心地にあつて、朝昼晩、「お告げの鐘」を響かせている平お告げの聖母教会の誕生の産ぶ声は、敗戦後の混乱期、一九四八年十二月二十日、グローロ神父様の種々の御苦労の末、ようやく恵まれた二階八畳の借家からでした。

その4日後に迎えたクリスマスには、いわき地方(それまでは郡山教会に所属)の各地から集まつた33人の小さな家族が、主任のグローロ神父様を囲み、喜びと感謝の中に平教会初めてのミサを捧げることができました。

その翌年、待望の聖堂が出来上がり、60畳の真新しい畳の香りの中で、33名の受洗者と共に、クリスマスのミサが捧げられました。

誕生当初は、辺り一面田んぼでしたが、今は文化センター、市役所、病院等、次々にビルが建ち官庁街となり、教会の正門前には、近年中に市美術館建設も予定されているという恵まれた環境に位置しています。

平駅から徒歩15分、平で一番高い鉄塔(平電話局)を目標にすると、その真下に位置し、正門右手には、夜間照明の掲示板と、通行人も優しく見つけて両手を広げられたイエズ

ス様の像(2メートル)があります。

一九五四年九月、市の要望に応じて、聖堂に隣接して、平お告げの聖母幼稚園(宗教法人)を設立しましたが、名門校のうわさが高いとのこと。これら敷地を囲む樹齢33歳のヒマラヤ杉、プラタナスの木立ちは、平名物の一つになっていているようです。

今年33歳を数える平教会も、地方小教区の特徴に漏れず、転入者よりは転出者が多く、信徒数400人台を下下しており、残念にもその半数は「主の日」顔を見る事ができません。

現在の信徒会は、それまでのヨゼフ会、婦人会を統一し、成人男女全員が会員に入り、各部門に役員をおいています。主な部は、研修部、厚生部、広報部、奉仕部、県連絡協議会委員、カナの会委員、福祉委員、一粒会係があります。また若い人の集まりであるガブリエル会があり、親睦を中心に行っています。

教会の主な活動の一つとして墓地清掃があり、毎月第三主日のミサ後、神父様を先頭に清掃に努め、聖母被昇天祭と諸聖人祭には、信者打ちそろって墓参をし、復活の時を待つ兄弟姉妹方との対話となります。

創立当初より行われている事に、毎主日第二ミサ後すぐ聖堂で神父様から要理の説明があり、一年間を通じて要理全部を復習することが出来ます。また、「お告げの聖母」に捧げられた教会として、毎日夜5時半からロザリオの祈りも30年来続けられています。

毎週火曜日には、聖書研究会があり、神父様の解説の後には、質疑応答の交換で、度々

深夜に及ぶこともあり、未信者の方も参加する楽しい「みことば」の時間となっています。

幼児洗礼の子ども達は、小学校入学と同時に、毎週土曜日の午後、「みことば」の勉強会があり、夏には伝道館で合宿生活を楽しむ、クリスマスには、準備次第で初聖体の喜びを受けることが出来ます。

グローロ神父様は、カトリック出版物普及にも力を入れ、その努力の結果、成人の信者は全員カトリック新聞の予約申し込みをし、カトリック新聞の発展の一助に努めました。

現在、平教会の信徒会の課題の一つは、現在の家庭的な暖かいつながりを大切にしながらも、信徒会各部の動きを更に活発にするためには、ともすれば会員各自の取り組み方が積極性に欠けている点を反省し、今後活気ある教会として成長していきたいと考えています。

(永久保君校記)

【編集後記】 ● 新潟、浦和、仙台三教区の間で、神父様方の研修会が佐渡で行われます。留守は信者達が守ります。安心して参加して下さい、と申し上げたいものです。

● 敬老の日を前に八木山カトリック幼稚園の園児達がおじいさん、おばあさん達にお手紙を書いたと新聞やTVで報じられました。小さな子どもの小さな善意、キリストの愛はいろいろな形で大きく広がっています。

● 11月11日、11月11日、11月11日、11月11日、11月11日

仙台司教区事務所だより48号
昭和五十六年十月一日発行
発行所 仙台司教区事務所
〒980 仙台市本町一丁目2番12号
TEL 0222 22 7371